

インクジェットヘッドユニット

ヘッド・コントローラーを自社装置に組み込み

吐出実績例

- 金属ナノ粒子液
- 細胞懸濁液
- 有機半導体溶液
- たんぱく溶液
- 高分子溶液
- 抗体溶液 など



インクジェットヘッド



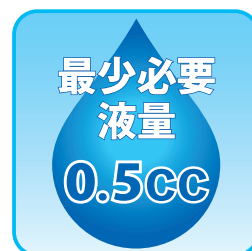
ヘッドコントローラー

特徴

- 1 強酸や強アルカリにも対応した、高耐液1ノズルヘッド
- 2 研究目的や液物性に合わせて、多種類のヘッドから選択
- 3 トリガ入力により、任意タイミングでの液滴形成
- 4 ヘッド洗浄が容易なため、様々な液種による評価

用途例

- 各種実験装置、生産システムへの組み込み 等
- インクジェット液材料の開発・評価
- 金属ナノ粒子液、UVインク、オイル、DNA、タンパク、抗体、細胞液 等の吐出
- 少量の液での吐出実験、デバイスの試作（最少必要液量 約0.5cc）



※液によって安定吐出しがない場合があります
※写真と実際の装置は異なる場合があります
※仕様は予告なしに変更することがあります



インクジェット吐出実験キット IJH シリーズ 概仕様



機種名	IJH-300
用途	液の吐出実験
装置構成	GlassJet、コントローラー、専用アプリケーション
搭載ヘッド ※詳細は下段参照	GlassJet 1ノズルヘッド 1個
ヘッド駆動条件	電圧、パルス幅、周波数など（外部トリガー入力で吐出指示可能） ※専用アプリケーションで設定
吐出液滴量	0.01～1.1nl/滴、最大周波数 5,000滴/秒 ※ヘッド種類や使用する液種による
ヘッド適応粘度 ※注1)	0.5～150 mPa・s ※ヘッド種類による ※液を加熱しての吐出を含む
液滴観察機能	なし
吐出液	インク、高分子液、ナノ粒子液、水系、油系、溶剤系、酸性液、液晶、試薬など
ヘッドクリーニング	マニュアルによる容器加圧 ※圧力制御装置(オプション)による自動容器加圧も可能
電源	単相AC90～240V 100W ※1ヘッド制御時 ※PCおよびPC接続の液滴観察カメラは除く
使用環境	15～30℃ 30～70%RH

インクジェットヘッド

ヘッド種類		特 徴	ヘッドヒータ	適応粘度[mPa・s]	吐出液滴量[nl/滴]
GlassJet	GJHBシリーズ	低粘度、高表面張力液を吐出	無	0.5～10	0.01～1.1
	GJHDシリーズ	加熱せずに高粘度液を吐出	無	2～40	0.01～1
	GJHEシリーズ	高粘度液を加熱して吐出	選択	2～150（液加熱）	0.04～1

0525

※注1) 液種によっては安定吐出できない液があります。

※液滴量により適応粘度目安は異なります。

※上記仕様は予告無しに変更することがあります。